

第5学年 社会科

1 学年の目標

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

知識 技能	(1) 我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状，社会の情報化と産業の関わりについて，国民生活との関連を踏まえて，理解する。 (2) 地図帳や地球儀，統計や年表などの各種の基礎的資料を通して，情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。
思考力，判断力，表現力等	社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考える力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力，考えたことや選択・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。
学びに向かう力，人間性等	(1) 社会的事象について，主体的に学習の問題を解決しようとする態度やよりよい社会を考え，学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。 (2) 多角的な思考や理解を通して，我が国の国土に対する愛情，我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

2 内容及び内容の取扱い

(1) 内容の枠組みと対象

内容	枠組み	対象	関連する対象
(1) 我が国の国土の様子と国民生活	地理的環境と人々の生活	日本	世界（地理） 経済・産業
(2) 我が国の農業や水産業における食料生産	現代社会の仕組みや働きと人々の生活	経済・産業	日本（地理） 国際関係 日本（歴史）
(3) 我が国の工業生産	現代社会の仕組みや働きと人々の生活	経済・産業	日本（地理） 国際関係 日本（歴史）
(4) 我が国の産業と情報との関わり	現代社会の仕組みや働きと人々の生活	経済・産業	日本（歴史）
(5) 我が国の国土の自然環境と国民生活の関わり	地理的環境と人々の生活 現代社会の仕組みや働きと人々の生活	日本 経済・産業 政治	

(2) 内容の取扱い

① 我が国の国土の様子と国民生活

- ア 世界における我が国の国土の位置，構成，領土の範囲などを大まかに理解すること。
- イ 我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに，人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること。
- ウ 地図帳や地球儀，各種の資料で調べ，まとめること。
- エ 世界の大陸と主な海洋，主な国の位置，多数の島からなる国土の構成などに着目して，我が国の国土の様子を捉え，その特色を考え，表現すること。
- オ 国土の自然環境の特色と国民生活との関連を考え，表現すること。
 - (ア) 竹島や北方領土，尖閣諸島が我が国の固有の領土であることに触れること。
 - (イ) 方位，緯度や経度などによる位置の表し方について取り扱うこと。
 - (ウ) 「主な国」については，名称についても扱うようにし，近隣の諸国を含めて取り上げる。

- (エ) 「自然条件から見て特色ある地域」については、地形条件や気候条件から見て、特色ある地域を取り上げること。
- ② 我が国の農業や水産業における食料生産
- ア 我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解すること。
- イ 食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解すること。
- ウ 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。
- エ 食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。
- オ 食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。
- (ア) 稲作のほか、野菜、果物、畜産物、水産物などの生産物の中から一つを取り上げること。
- ③ 我が国の工業生産
- ア 国土には工業の盛んな地域が広がっていることや工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解すること。
- イ 工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解すること。
- ウ 貿易や運輸は、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解すること。
- エ 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。
- オ 工業生産の概要を捉え、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。
- カ 工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。
- キ 貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現すること。
- (ア) 金属工業、機械工業、化学工業、食料品工業などの中から一つを取り上げること。
- ④ 我が国の産業と情報との関わり
- ア 放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解すること。
- イ 大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。
- ウ 聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめること。
- エ 放送、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。
- オ 産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。
- (ア) 「放送、新聞などの産業」については、テレビ、ラジオ、新聞の中から選択して取り上げること。
- (イ) 情報や情報技術を活用して発展している販売、運輸、観光、医療、福祉などに関わる産業の中から選択して取り上げること。
- ⑤ 我が国の国土の自然環境と国民生活の関わり
- ア 自然災害は自然条件などに関連して発生していることや、自然災害から国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。
- イ 森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など、重要な役割を果たしていることを理解すること。
- ウ 公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解するとともに、公害から環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解すること。
- エ 地図帳や各種の資料で調べ、まとめること。
- オ 国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。
- カ 国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現すること。
- キ 公害防止の取組を捉え、その働きを考え、表現すること。

(ア) 自然災害については、地震災害、津波災害、風水害などを取り上げること。

(イ) 公害については、大気の汚染、水質の汚濁などの中から具体的事例を選択して取り上げること。

3 問題解決的な学習の充実の視点

社会科では、従来から問題解決的な学習が重視されてきた。今回の学習指導要領でも、学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るために、問題解決的な学習過程を充実させることが求められている。

「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿った資質・能力は、習得した知識や技能を活用して、調べたり思考・判断したり表現したりしながら課題を解決する一連の学習において、育成されるものと考えられるため、社会科においては、問題解決的な学習の一層の充実に努めることが有効かつ必要である。

社会科の問題解決的な学習には、一般的に二つの要件が欠かせない。一つは、学習者である児童が自らの問題意識に即して「自発的に問題を捉える」ことである。もう一つは学習者である児童が「自ら考えることによって学習問題を追究・解決していく」ことである。

つまり、これからの社会科では、児童が自ら問題を捉え、その問題を追究・解決していくプロセスを一層充実させること、それを通して知識や技能、思考力や判断力、表現力等を身に付け活用できるようにしていくことが求められている。

(1) 学習問題を共有する指導

問題解決的な学習では、学習問題をみんなのものにしていくこと（共有化）が不可欠である。そのためには、指導の工夫をすることが大切である。

- まず、「おもしろそうだ」という事実に出会わせ、児童の心を学習の対象に惹き付けるようにする。
- 次に、個々の驚きや素朴な疑問などをきっかけとして、児童の直感や経験、すなわち既有の常識的な見方や考え方では解釈・説明のつかない状況を経験させる。
- 最後に、そこで味わった驚きや疑問をみんなのものにしていく（共有化）。

学習問題は、児童の問題意識と表裏一体の関係で成り立つ学習の問題（社会科学学習のねらいを実現するもの）であることが必要条件である。学習問題の設定に当たっては留意し、適切な指導に努めなければならない。

- 「学習問題を追究していくことにより、単元の目標が実現できるか」という視点から、学習問題を十分に吟味する。
- 協働学習者とのかかわりの中で、個々の驚きや疑問がみんなの問いとして方向付けられ、焦点化されるようにする。
- 個々の児童が、学習問題の追究・解決の見通しをもてるように、発達段階に応じて、調べる視点や事柄、方法や手順、表現方法やまとめ方などを決め、具体的な学習計画を立案する。

(2) 学習問題に即して調べ、表す指導

「学習問題に即して、調べ、表す」ことを繰り返し指導することが大切である。児童は調べる学習に没頭すると、「何のために」「何を」調べているかを見失ってしまうことも多いので、それを防ぐための指導が必要である。

- 観察や調査、各種の資料を活用して調べる学習などにおいて、常に学習問題を意識させる。
- 調べたことを表現する場面において、表現していることが学習問題と離れてしまうことがないように、機会をとらえて一斉にあるいは個々に助言したり、学習問題を常掲して意識付けたりする。

また、観察・調査、資料活用 of 技能を高め、児童が自力で調べる力を育てることも、問題解決的な学習を充実させる上で必要不可欠である。

(3) 学習問題の解決に向けた思考・表現活動

学習問題の解決に向けて考えたり表現したりする活動を工夫することが大切である。具体的には、調べたことを比較（比べる）・関連付け（つなげる）、総合（まとめる）しながら、学習問題の解決に向けて再構成する学習、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合う（説明し合う）ことにより、お互いの考えを深めていく学習の充実を図ることが大切である。

その際、言語活動の充実に努め、他者とのコミュニケーションによって生まれる協働的な学び合いを大切にしていけることが重要である。

4 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識 技能	(1) 我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状，社会の情報化と産業の関わりについて，国民の生活との関連を踏まえて理解している。 (2) 地図帳や地球儀，統計などの各種の基礎的資料を通して，情報を適切に調べまとめている。
思考・判断・表現	我が国の国土や産業の様子に関連する社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり，考えたことや選択・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	我が国の国土や産業の様子に関する社会的事象について，我が国の国土に対する愛情をもち，産業の発展を願う国家及び社会の将来の担い手として主体的に問題解決しようとしたり，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。